

## 表題：第6回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成25年9月24日（火曜日） 18時05分から19時35分
- 2 場 所 町民会館第3会議室
- 3 出席者 （構成員） ※敬称略  
飯田弘、榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、  
清水久央、中沢清、野本多恵子  
（協働施策推進アドバイザー）  
辻山幸宣（財地方自治総合研究所所長）  
（事務局）  
住民部長田辺健、地域課長大井克己、地域課地域係長友野裕之、  
地域課地域係主任福島聡
- 4 欠席者 近藤隆幸
- 5 議 題 1 協働宣言の策定に向けた作業（2回目）  
2 その他
- 6 配付資料 1 次第（当日配付）  
2 協働宣言の策定に向けた作業（2回目）の流れ及び  
作業のまとめ（当日配付）  
3 ホームページ抜粋（協働の項目）（当日配付）  
4 第5回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
- 7 開会  
座長
- 8 あいさつ  
住民部長
- 9 資料の確認及び説明  
友野係長から
  - ・ 資料の確認を行いました。
  - ・ 協働の項目を町ホームページに掲載したことを説明しました。
- 10 議題1 協働宣言の策定に向けた作業（2回目）  
3つの班に別れ、模造紙、ポストイットを使用したワークショップを行いました。
  - 【1班】榎本氏、加戸氏、田辺部長、福島主任
  - 【2班】香取氏、川口氏、清水氏、大井課長
  - 【3班】古宮氏、中沢氏、野本氏、友野係長
  - ・ 時間は約50分

### （1）役割分担

班長（進行）、書記（まとめ用紙に記入）、発表者（まとめの発表）を決めま

した。

(2) 意見の書き出し

各自意見をポストイットに記入しました。(色分け 青色【町民】、赤色【町】)

(3) 意見の分類

記入したポストイットを模造紙に貼り付けました。

(4) 分類の協議

貼り付けたポストイットについて、班の中で協議しました。

(5) まとめ

書記はポイントを整理し、「まとめ用紙」に記入しました。

(6) 発表

班でまとめた内容を発表しました。

【テーマ】

協働することの意義とは【町民・町にとってのメリット】

【結論】

第2回作業ま	1 班	2 班	3 班
--------	-----	-----	-----

とめ			
町民 (住民・NPO・ボランティア・事業所)	町づくりへの参加意識を持つことで、連携が生まれる。 自分たちが主体で行動できる。 町への愛着が生まれる。	<p>行政への参画意識が強まる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町づくりに参加できる(主体・主役となれる)</li> <li>町民の思いが行政に伝わる</li> <li>行政を身近に感じる</li> <li>色々な事業に主体的に参加できる</li> </ul> <p>相互に利益が得られる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町民同士が互いに補い合える</li> <li>様々なサービスが受けられる</li> <li>作り上げたものの活用で生活向上につながる</li> </ul> <p>自己実現、生きがいになる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の理想の実現(自分の考えを実現できる可能性がある)</li> <li>高齢化社会の中でお年寄りの生きがいとなる</li> </ul> <p>新しい交流が生まれる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者から子どもまでの交流につながる</li> <li>同じ考えを持った町民同士の連帯感ができる</li> <li>コミュニティの再生</li> <li>新しいコミュニティが生まれる</li> </ul> <p>住んでいて良かった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>瑞穂に住んでいて良かった!</li> <li>存在感が醸成される</li> </ul>	<p>心の充実感</p> <p>住み良い町</p> <p>実行力・スキル・ノウハウの共有、技術をつなぎ残す</p> <p>町民と行政との距離感が近づくことでより良い生活環境になる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町民自らが協力することで自分の描いている町づくりができる。←安全・安心な町</li> <li>それが生きがい、やりがいをもった日々になる。</li> <li>ひとりではできない事が力を合わせることで実現</li> <li>年の差を超えたところでの関わりで色々なものの考え方・技術・歴史を学べる</li> </ul>
町 (行政)	本来すべきことを行うことができる。 住民とまちづくりを考えることができる。 地域の実情に気づくことができる。	<p>町と町民の意見交換が活発になる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民の考えを知る場となる</li> <li>町民参画が進み、町民要望の実現が具体的にできる</li> <li>意見交換が活発になる</li> <li>町民の意向を具体的に知る機会が増える</li> </ul> <p>町民へのサービス向上につながる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政サービスで届かない公共福</li> </ul>	<p>町事業の展開</p> <p>ノウハウの蓄積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町の事業などを知ってもらえる良い機会</li> <li>財政の健全が図りやすく、町民が必要とする事業に予算をまわすことができる</li> <li>町民のもっている技術・スキ</li> </ul>

		祉が実現する ・ サービスの利用度が向上 ・ 行政負担の軽減→他の公共福祉に投資可 ・ 「町民の為の行政」に照準を当てられる 職員の意識が高まる ・ 職員の士気が上がる（業務に対する） ・ 職員が自主的に参加 ・ 達成感が得られる 投票率UP！！	ルを得ることができる ・ 町民からあがってきた、職員とは違った面白い視点での物事の進め方や、ものができるのでは？
その他		住民と一緒に活動できるか？	

各班から発表を行いました。

#### 1 班

##### ●町民のメリット

- ・ 1つ目は、町づくりへの参加意識を持つことで、連携が生まれるということです。連携から地域の安全、安心につながっていくだろうという意見が交わされました。
- ・ 2つ目は、自分達が主体で行動できるということです。町民の方は行政へのお任せや無関心といったことがあるのではないかとということでした。
- ・ 3点目は、町への愛着が生まれるということです。協働するという事は地域に対する関心が生まれますので、関心が地域への愛着の醸成につながるのではと考えました。

##### ●町のメリット

- ・ 1点目は、本来すべきことを行うことができるということです。行政には無駄といった批判もありますが、協働を進め、町民とコラボレーションすることで財政面や労力面で軽減ができるのではないかと思います。その浮いた部分、空いた部分に本来すべきことを回せるのではないかとということです。
- ・ 2点目は、住民とまちづくりを考えることができることです。行政の職員ですと年齢構成的に20歳から60歳くらいの職員。また、住所も半分くらいは町の方です。つまり、実際に地域に暮らしている方の生活スタイルがなかなか分からない部分があるのではないかとということです。例えば、町の施策で交通環境を向上しましょうといっても、八高線に乗って箱根ヶ崎駅から出発する職員

もいませんので、そういった面では分かっていないのではないかとということです。そういったことで、町民の実情を把握することができるということです。

- ・ 3点目は2点目と重複しますが、身近な自然や歴史、暮らし方の実情に気づくことができるということです。

## 2班

### ●全体について

- ・ メリットは町民の方にたくさんあるのではないかと思います。町にたくさんあるのかとも考えましたが、町民の側にたくさんメリットがありました。それに関連して町にもメリットがあるということです。
- ・ 活発になる、向上する、高まるなど全体的に現状より上になるということがほとんどでした。また、今までは無かったが得られるようになるとか生きがいになるとか、これから始まるようなことといった、2つのトーンに分けられた感じがしました。こういう感じで協働を進めると良いものができるのではないかと思います。

### ●町民のメリット

- ・ 行政への参画意識が強まるということです。今までは、役場に用事があるときだけが役場、税金をとられるのが役場というように思っていたのかもしれませんが、皆が積極的に役場に加わっていきこうというように変わっていくでしょうということです。
- ・ 相互に利益が得られるということがありました。利益といっても金銭というよりは精神的なものとか仕組みということだと思います。
- ・ 参画をして一緒にやることを通して生きがいを感じるということがありました。その生きがいの中で新しいものも生まれ、やっぱり瑞穂町に住んでいて良かったというようになると良いかと思います。

### ●町のメリット

- ・ 町と町民の意見交換が活発になるということは、行政も活発になるということにつながるのかと思います。
- ・ 町民へのサービス向上につながります。当然、意見交換が活発になると町民が意図するところが分かりますので、政治の向きがサービス向上に向かうことになるのではないかと思います。
- ・ 職員の意識が高まることです。職員の意識を高めるためにはどうしたら良いかということですが、自分達は町民のために仕事をしているということが職員一人ひとりに感じられるようになれば、当然意識も高まって、いい仕事ができるのではないかとということです。
- ・ 町民と町と一体になれば良くなる項目がたくさんありましたが、分けなければいけないということで、これらの項目をひとつにすればすごく良いものができるのではないかと考えています。

### 3班

#### ●町民のメリット

- ・心の充実感ということがあります。心の充実感が得られれば住み良い町となり、実行力やスキル、ノウハウが共有できて技術を残せると思います。要は、生きがいにもつながります。
- ・町民と行政の距離感が近づくことでより良い生活環境を作っていけるのかと思います。すべてがひとつ同じテーマに向かってそれぞれ細かく分かれていくということです。
- ・町民自らが協働作業をするという、自分で場に出てくるということで個々が描いている町づくりができるのかと思います。そのためには、たくさんの人の力が必要であると思います。たくさんの人の力が必要ということは、自分の持っている技術やスキルを活かせる場ができるということなので、町民にとってのメリットというのが、ここにずっと住んでいけるような良い町ができるということです。
- ・年齢差などを越えたところの関わりができる訳で、そうすると若い方や子どもなどいろいろな考えを持った方がいますが、一緒に協働作業することで非常に新鮮な感じが得られるのかなと思います。
- ・技術や歴史を学ぶことができます。
- ・最終的には自分や家族、周りの人が考えているような世界が実現できるのではないかと思います。

#### ●町のメリット

- ・町の事業展開で、新しい血と言いますか、外からの考え方が上がってくことで面白いものができてくるのではないかと思います。そういったものをしていくに当っては、いろいろなスキル、技術を持っている方がいらっしゃると思いますので、ノウハウなどが町の方に蓄積できるのではないかと思います。
- ・様々な人が関わる中で、役場の方が行政側というのではなく一町民といいますか、活動していく中で一人の人間として面白い活動を行い、そこでやりがいなどができるのではないかと思います。

#### 【質疑】

Q（座長）1班の発表の中で「本来すべきこと」というのがありましたが、それはどういったことでしょうか。

A（1班）住民も少し甘えてしまっていて、ちょっとしたことでも行政がやっつけてしまっている部分があるのではないかと思います。それらを精査することによって、行政マンとして町づくりのところで力を発揮してもらうことが一番良い姿なのではないかと思います。

Q（3班）瑞穂町では、既に「協働」という言葉を使った事業はありますか。

A（1班）協働型防災訓練はそうですよね。文字でもそのまま使っていますよね。

#### アドバイザーからの講評

- ・ 3班とも目線は同じ方向に向かっています。
- ・ いろんなことができる、生きがいになるというのは何が導くのでしょうか。生活していく上で、友達ができるということが大事なのか、それとも政府に任せていたものを自分たちでやることが大事なのか、健康が生きがいになるとか、もう少し普段生活している人もこれはやってみようかと思えるようなつながり方のポイントですとか、ひとつキーワードがあると良いのではないかと思います。
- ・ 協働の町づくりの中において町議会との関係について、どこかで議論した方が良いのかもしれない。

#### 議題 2 その他

##### 事務局から

- ・ 町民に対して意見募集することについて説明しました。  
期間は10月1日から10月18日まで  
広報やホームページに掲載するとともに、役場1階ロビーと3つのコミセンに意見箱を設置することで現在準備中
- ・ 次回会議の日程調整を提案しました。